2008 年 10 月 29 日

中露石油貿易について

10 月 28 日、中国－ロシア間で今後の原油売買に関して基本的な合意が成立したようである。情報[1]によると、中国側は 200～250 億ドルの輸出ローンをロシアに供与し、一方、ロシア側は向こう 20 年間、合計 3 億トンの原油を中国へ輸出することになっている。また、すでに 10 数年間にわたり交渉が続いていた中露石油パイプライン（ESPO）中国支線の敷設についても両国の合意がなり、今後 1 ヵ月間にワーキング会議を持ち、詳細な内容を交渉して決着する予定である。天然ガスについて、中国の CNPC とロシアのガスプロムの間で、東ルート（ロシアの極東地域から中国へのルート）のガスパイプラインの敷設について詳細な検討を始めること、また、原子力発電や電力輸出入などについても、両国の副首相級会談で討議されたことが報道された。さらに、中露両政府の間にエネルギー部会を設置して、ロシアのエネルギー相と中国の国家能源局長が定期会議を行うことも決定された。

一連の情報だけを見ると、中露間の石油・ガス協力は順調に進展しているように思われるが、報道内容を細かく分析すると、多くの課題が残されていることが分かる。数年前に中露間で石油売買契約が締結され、中国は 60 億ドルをロシアに提供する代わりに、2010 年まで年に合計 4,840 万トンの原油を受け取ることが約束されたが、原油価格、輸送タリフなどのため、この契約が完全に履行されることは難しいであろう。さらに、東ルートの天然ガスパイプライン敷設は 10 数年前から検討されているが、ガス価格などの問題もあって、今なお、検討が継続している模様である。

他方、ロシアの中央集権化と民主化の後退、周辺国に対する強引な政策に西側が反発し、民主化に対する支援も減少している。中国についても、人権、製品の安全性、台湾問題など、日本を含む西側からの批判の声が強まっている。一方、ロシアと中国には、西側あるいはアメリカの一極支配に対抗するために両国の戦略的な関係を維持しなければならないという背景もある。また、世界的金融危機と原油価格の下落によって、原油・ガスの輸出に依存するロシア経済は極めて大きな衝撃を受け、エネルギー資源開発のための資金調達がますます困難になっている。原油・ガス供給不足によって、経済発展が制制約を受けている中国にとって、エネルギーの安定供給やエネルギーセキュリティは致命的な課題であり、莫大な外貨準備の活用（価値の維持）も重要なポイントである。

しかしながら、歴史的に見て、中露の政府ならびに国民の間に信頼関係があったことは一度もなく、互いに警戒する状態が続いている。また、ロシア極東地域の中国人移民問題や、新疆地域の独立運動、中央アジアの資源と権益をめぐる葛藤や、モンゴル、北朝鮮に対する影響力等の問題が、両国の間で簡単に解決することはないであろう。エネルギー協力も同様であり、今回の合意内容が全て順調に実施に移されることは不可能であろう。

（エイジアム研究所 首席研究員　張 継偉）

Asiam Research Institute　http://www.asiam.co.jp/

---

[1] NASDAQ 「Russia, China sign multi-billion dollar crude oil agreement」「http://www.nasdaq.com」